

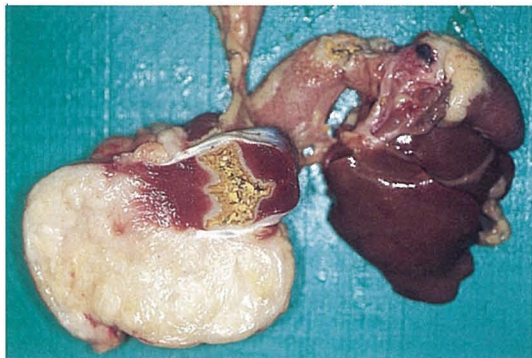
35. 線維肉腫 (Fibrosarcoma)

誌名	鶏病研究会報
ISSN	0285709X
著者	桜井, 陵行
巻/号	34巻3号
掲載ページ	p. 198
発行年月	1998年11月

食鳥病変シリーズ

35. 線維肉腫 (Fibrosarcoma)

キーワード：プロイラー，線維肉腫，線維芽細胞，核分裂像



腫瘍の肉眼所見

筋胃外側筋に認められた腫瘍の断面。平滑な被膜に覆われ、淡黄白色を呈し、均質で硬結感を有する。

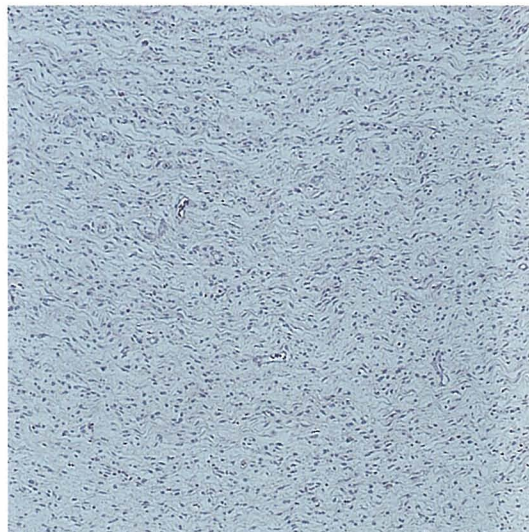
動物：プロイラー，雄，56日齢

発生状況：1996年10月21日に処理した7,228羽の中の1羽に認められた。

肉眼所見：内臓摘出後の検査において、筋胃外側筋に平滑な被膜に覆われた9×7×6cm大の腫瘤がみられた。剖面を作ると、淡黄白色で軽度に膨隆し、硬結感を有していた。中央にはやや脆弱な部分も認められたが、ほぼ均一な構造で出血はほとんど認められなかった。筋胃外側筋との境界は不明瞭であった。筋胃粘膜面や、他の臓器、神経叢には著変は認められなかった。

組織所見：10%中性緩衝ホルマリンで固定後、組織標本を作製した。腫瘍組織は発達した膠原線維束によって不規則に区分され、腫瘍細胞間にも細かい膠原線維が分布していた。好銀線維は腫瘍細胞周囲にわずかに分布していた。腫瘍細胞は紡錘形で、類円形～紡錘形の核と淡明な細胞質を有し、束状あるいは渦巻き状に配列していた。また、特別の配列を示さない線維芽細胞が多数混在し、核分裂像も散見された。

筋胃外側筋との接合部から腫瘍中央部までは、腫瘍細



腫瘍の組織所見

紡錘型の細胞が錯綜してあるいは束状に配列している。細胞間には膠原線維が分布し、線維芽細胞も多数みられ、核分裂像も散見される。HE染色

胞や膠原線維によって分断された筋細胞が遺残していたが、腫瘍塊の辺縁部には筋細胞は認められなかった。腫瘍細胞は平滑筋アクチン陰性であった。腫瘍組織の大部分では壊死巣や血管はほとんど見られなかったが、腫瘍表面の被膜下では血管の増生が認められた。

診断：平滑筋腫にも類似するが、組織内に筋組織由来の細胞は遺残した筋胃外側筋細胞以外には認められなかった。また、腫瘍細胞が紡錘型を呈し、類円形～紡錘形の核を持つこと、線維芽細胞が混在すること、核分裂像も見られることから、線維肉腫を疑った。しかし、膠原線維が発達し、好銀線維が乏しいことから研修会では神経線維腫として発表した。その後指摘を受けたことについて検査し線維肉腫と診断した。